

第20回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 令和2年3月5日（木） 14:00～16:00

【場所】 軽井沢町役場 第3・第4会議室

【出席者】 基本会議委員：志立正嗣委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
中嶋聞多委員、貫名礼恵委員、藤井俊子委員、
石山武委員、瀬川智子委員、高尾幸男委員、
青木健太郎委員、上原梓委員、佐藤一貴委員、
森憲之委員、柳澤陽平委員

内 容

1. 開 会

【導入】

ファシリテーター

今期の風土フォーラムは、住民自治として自走する事をテーマに取り組んできた。第2期最後の基本会議なので、自走・自立を振り返りながら進めていきたい。

新年度より第3期風土フォーラムが始まる。本日は、第2期を振り返りながら今後の風土フォーラムに繋がる意見を出しあっていただきたい。

2. 会長あいさつ

○ファシリテーターによる進行

会長

新型コロナウイルス感染症が蔓延している中で、あえて会議を開催したのは、第2期風土フォーラムの始まりに掲げた Society 5.0 を意識したまちづくりを実践している中で、テレビ会議システムを活用してどんなに厳しい環境であっても会議や町民サービスを実施する事に慣れておく必要があると考えたからである。

新型コロナウイルス感染症に対する世間の動きを見ると、大企業ではテレワークや時間差通勤が推奨され、大企業が密集している都市から人が激減した。一方、中小企業が密集している地域では、それ程大きな変化は感じられなかった。今回、大企業と中小企業での危機管理、意識レベルの違いを痛感させられた。

3.11（東日本大震災）の時に、多くの企業は交通手段が失われ出社する事ができない状況だったので、マイクロソフト社はテクノロジーを活用してどんな場所からでも仕事ができるようにした。企業にとって大事な事は、BCP対策（事業継続計画の略で、企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。）を万全にしておく事である。

3. 議 事

（1）今後の風土フォーラムについて

○各委員より、来年度以降の風土フォーラムの方向性について

【意見交換】（発言順）

A委員

軽井沢グランドデザインで、風土自治の苗床として風土フォーラムが謳われている中で、しっかり機能できたのか、改めて議論するべきだと思った。コミュニティ共創プロジェクトチーム（以下、PTという）では、大日向地区において課題に取り組んできたが、共創することの難しさを痛感した。だからこそ、風土自治の在り方をどのような形で実現していくのかが、非常に大切となる。

風土自治において、町職員は大変重要な役割となるので、職員自身が楽しく仕事をしてくれる町であってほしいと思う。

B委員

風土フォーラムの活動が住民に認知されていないので、もっと住民に知っていただく活動が必要だと思う。先日、観光協会主催の講演会に参加し、かんてんぱぱ伊那食品工業(株)の当社時の取り組みについて聞いた。内容は、会社の前の道路が片側一車線のため、右折を待っていると後続車が詰まり渋滞の原因になることから、大廻りしてでも左折で入るように心掛けているということだった。町は、一人一人の志によって成り立っているので、風土フォーラムの活動が、町民一人一人の心に刺さるような取り組みになるとよいと思う。軽井沢は、昔からの住民、新住民、観光客、別荘住民で成り立っている。みんなで軽井沢をつくりあげていければよい。

C委員

行政の立場で基本会議に参加すると、法令順守の意識が強くなり間違った発言をしてはいけないという気持ちが強くなる。しかしながら、風土自治を進めていくうえでは、住民の考えに寄り添うような形で町職員がどこまで参加できるかということが、今後は大事だと思う。

D委員

第2期より別荘住民の立場として参加してきた。参加当初、地区の活動やボランティアにおいても、町民の力が強く、意識の高い人たちが活発的で感動した。しかし、別荘住民の入る余地がなく寂しさも感じ、別

荘住民がまちづくりのために必要なのか悩んだこともあった。

風土自治の概念を、全国に広げていきたいと考えている。浅間山等の自然や文化について、風土ごとにコミュニティをつくれるとよい。

地域住民は、浅間山が噴火した場合でも落ち着いて対処できる。別荘住民や観光客であっても、災害発生時にパニックにならないように、風土フォーラムで取り組んでいく必要があるのではないかと。基本会議委員が在住する地区で活動できるとよいと思う。都会の人たちも安心できるような風土自治を行うことで、皆が楽しく軽井沢で過ごせるようになると思う。

E 委員

風土フォーラムを立ち上げた当時の考えは、はじめは行政も介入するが、徐々に行政の手を離れていき、最終的には民間の人たちの力で進めていきたいというものだった。第4期、第5期を見据えると、自走という形で進めていくのがよいと考える。その中には、行政として考えるセクションを作るなど、違う形での官民連携があってもよい。

夏の渋滞問題については、今よりも20年、30年前の方が混雑している印象で、渋滞が軽井沢の一つの文化になっていた。軽井沢は観光の町として成り立っているので、1年のうち10日程度は渋滞するのは当然という考え方もあるのではないかと。

F 委員

自走する組織の難しさを実感した2年間であった。風土フォーラムは、法律や規則に縛られていない組織なので、本来であれば色々なことが自由にできる。しかし、行政の立場で考えた時に、クリア出来ないことやハードルが上がってしまう事も多々あった。まちづくりについて議論する中では、現実性について考える事も必要である。現実性と理想のバランスが重要だと思う。多少の反対意見があっても、風土フォーラムとして大切だと思える活動を信じて進めていくことが大事ではないかと。

G 委員

第1期において、子どもたち自身が将来の軽井沢を考える環境をつ

くれないかという思いから、PTの「チームみらいえ」を立ち上げた。チームみらいえでは、すでに自走してイベント開催を行っている。風土フォーラムの良い成功事例ではないか。

第2期では交通関連PT構成員として、軽井沢らしい快適な交通をテーマに議論を進めてきた。軽井沢らしさの一つとして、思いやりや交通マナーを意識付けしていくことが考えられる。軽井沢の避暑地としての格式、少し敷居が高いイメージブランドを作らなければ軽井沢らしさは生きてこない。軽井沢らしさを風土フォーラムから発信し、住民に語り掛けていく事が必要だと思う。

委員の熱い思いが風土フォーラムの原動力になる。第3期では、明るい雰囲気をつくり意見を出しやすい会議となるよう考えていければ良いのではないか。

H委員

交通関連PTにて実施した、商業者や交通事業者へのヒアリングや渋滞を考えるシンポジウムは、風土フォーラムならではの取り組みだったと思う。シンポジウムを通して、渋滞問題への意識が高く本気で軽井沢のことを考えている人がいることが知れた。今期の交通関連PTでは、ある程度課題の洗い出しや方向性を見出すことができたので、第3期では自動車関係の専門家や一般の方が参加できる機会を設けていただければと思う。

風土フォーラム事務局に寄せられた意見には、色々な分野での課題が含まれていたのも、違う項目にも視点を絞り、取り組むのも面白いと思う。

I委員

第3期では、軽井沢町庁舎改築周辺整備事業検討委員会（以下、庁舎検討委員会という）の進め方に関する作業部会が出来たら良い。現在、庁舎検討委員会で行われている協議は、軽井沢の将来について住民と行政が一体になって考えて行動する、風土自治の実践に向けたまちづくり活動そのものだと思う。住民の参画、風土自治の観点からもう少し具体的な方法を検討、また庁舎検討委員会における事務局支援を行う

作業部会を設置したい。

軽井沢町の人口動態について、調査・研究を行う作業部会が出来ると良い。今年、国勢調査が実施されるので、過去の統計と併せて各区の人口等の基本情報について研究を行い、町の施策に生かしていきたい。

J 委員

Society 5.0 やテクノロジーを取り入れ、町民の幸せのために結び付けていくような施策が必要である。まちづくりや新しい技術、精神的なものに対する意識・関心は、住民ごとに差があると思う。風土フォーラムでは、多くの住民に新しいものを受け入れてもらえるような環境づくりや情報発信をしていく必要がある。

他の自治体の取り組み事例や動向を学ぶ事も必要である。世の中の動きを把握する事により、情報の格差や意識の格差を埋め、新しい環境がつくられる。軽井沢では先進的なものを取り入れながら、伝統的な文化をつくってきたと思う。今後は、風土フォーラムが新しい文化や歴史をつくっていけるとよい。

風土フォーラム事務局が閉鎖されるのは残念である。しかし、役場庁舎で事務局機能が引き継がれるとの事なので、今後もこれまで事務局で実施していた活動にも取り組んでいただきたい。

K 委員

住民が意見を言える、思いを汲み取ってもらえる場が増えたことは第2期の成果だと思う。私たちが風土フォーラムとして活動している姿勢を見せられ、人や団体を繋ぐ役割が出来た事も大きかったと思う。

住民から寄せられた意見はとても貴重であり、その内容こそが軽井沢らしさだと思う。軽井沢の魅力を打ち出すことにより、軽井沢が注目され事業者等も協力しやすくなる。今後は、住民からの意見を活動に反映していくことを全面に出していくことで、住民側も意見を出してくれるような相乗効果が生まれる。

L 委員

軽井沢グランドデザインにはデジタルや Society 5.0 の概念が全く入っていないので、その部分で風土フォーラムに貢献できればと考え

委員となった。第1期は、試行錯誤の2年間であった。第2期は、活動が進んでいくかと期待したが、残念ながら軽井沢に対してできたことは、100分の1程度だったように思う。今後、風土フォーラムの活動が活発化するためには、町が権限を持っている「ヒト・モノ・カネ」を風土フォーラムに移譲することを検討する必要がある。自由に取り組みせる事にチャレンジしない限り、良いアイデアは出ても種にしかない。

第3期への提言は、町長にリーダーシップを発揮していただき、新しい事を実施するための予算をきちんと確保して活動させて欲しい。もしくは、風土フォーラムの活動に共感して支援してくれる民間と連携して取り組みやすい環境を整備してほしい。環境づくりのためには、町側が風土フォーラムをサポートできる条例等を定めるべきではないか。それが難しいのであれば、高齢化が進み、加入者がいない区をベースに風土フォーラムを進めていく方が軽井沢の将来のためには良いのかも知れない。

M委員（言伝にてコメント）

第2期では交通関連PTに参加し、町の事をよりよく知るようになった。その中で感じたことは、軽井沢らしさが一番大事だということである。今後は官民協働などにより新しい事を取り入れながら、軽井沢らしさを大事にして独自のものを作り上げていけるとよい。

副会長

基本会議の中で素晴らしいメンバーと意見交換や議論できた事はとても貴重な時間であった。私たちも知恵を絞り色々な手立てを構築してきたが、風土フォーラム自体が地域にどれだけ認知されているのかというと、非常に心もとない。私は当初から、風土フォーラム事務局は外へ出ていくべきだと話してきた。風土フォーラム事務局に足を運び、話していただいた内容は非常に貴重な意見であり、意見を寄せてくださった方たちに地域のキーマンになってもらえるよう仕掛けていく事が出来たらよい。軽井沢町には「みんなの力でつくるまち活動支援事業」や「まちづくり提案」があるので、キーマンとなる人にこれらの制度を

活用してもらい、行政と一緒に取り組むよう働きかけたらよい。

町職員の基本会議に対する意欲が薄れてきているように感じる。町職員の委員だけでなく、他の部署も一緒に風土フォーラムを盛り上げ、役場全体でワンチームとして頑張ろうという意欲を持っていただきたい。

基本会議では、傍聴者なしで委員同士が話しやすい場を作ることで、発言の少ない人からも色々な意見が聞けるのではないか。また、各PTの活動においては、自由度を高め、私たち自身が自走できるような環境づくりをしないといけない。

会議資料は事前に配布してもらい、この場では意見を交換する時間を多く取るのがよい。

会長

第1期は、地元や別荘の友人などから風土フォーラムについて聞かれる事も多かったが、第2期になり、周囲の関心が薄れてしまったと感じる。会長として情報の発信力が足りなかったと反省している。第3期は権限を持ち、動きやすい組織づくりをする必要がある。

I委員からの提案にあった人口調査は興味深く感じた。今の子どもたちは、軽井沢にあまり魅力を感じていないように思う。これは30年、50年先を見据えた時に、危機的な状況となるので、私たちが今考えなければいけない重要な内容だと思う。第3期のPTとして、人口調査も含め、軽井沢町のマーケティング調査をしてブランディングするのも大事ではないか。

(2) プロジェクトチーム、エリアデザイン検討の進捗等について

【コミュニティ共創PT】

○コミュニティ共創PTの活動状況及び来期への提案について

◆今後の方向性

- ・大日向地区の防災をモデル・プロジェクトとして、ソフトバンク(株)や信州大学他、ISAK等の多様なステークホルダーを巻き込んで、ワー

クシヨツプ開催を目標に進めていきたい。

【交通関連PT】

○交通関連PTの活動状況及び今後の方向性について

◆今後の方向性

①実証実験の実現へ（自家用車使用抑制、先進技術導入）

- ・自家用車から新幹線等への切り替え促進
- ・軽井沢 MaaS アプリ構築
- ・シャトルバス運行
- ・パーク&バス→大規模パーク+シャトルバス
- ・駅周辺・旧軽井沢乗り入れ規制や一方通行化、駐車場誘導

②試験実施に向けた環境整備

【チームみらいえPT】

○チームみらいえPTの活動状況及び今後の方向性について

◆今後の方向性

- ・プラスチック等のゴミ問題にからめて、地球環境から足元の暮らしぶりや自然環境に目を向けてもらう活動を展開したい。
- ・「子どもアントレプレナー」イベントを通じて、お金の大切さやビジネスについて学ぶ機会を提供したい。

【エリアデザイン検討の進捗】

○ファシリテーターより、エリアデザイン検討の進捗について報告

◆エリアデザインの進捗状況

※今年度は「新軽井沢エリア運営会議」「中軽井沢エリア運営会議」が発足した。

◆運営会議の討議要旨

【新軽井沢エリア運営会議】

- ・新軽井沢の2つの側面である「コミュニティとしての新軽井沢」「軽井

沢の玄関口」を両立しながら、どのようなまちづくりを行うのかを念頭に議論を進める。

- ・住民対話を行いながら課題を整理し、ありたい姿を探っていく。

【中軽井沢エリア運営会議】

- ・中軽井沢エリアデザインで扱う主要テーマ

- ①湯川周辺の整備・活用
- ②まちづくり団体の設立(まちづくり会社)
- ③長野県事業の地域発元気づくり支援金を活用した活性化

【意見交換】

D委員

新軽井沢エリアでは、過去の経験から、地域を火災から守るというテーマがある事と、水が出やすいエリアという特徴を活かして水の都にする考えもある。その土地の川や自然も併せての風土自治なので、今後は自然環境も含めて検討を進めてほしい。

軽井沢町でも「水害ハザードマップ」を作成していただきたい。

ファシリテーター

エリアデザインの中で風土を意識することは大事である。新軽井沢エリア運営会議に意見を伝えつつ、今後も住民中心に議論を進めていく。

(3) Co-Creation について

- ファシリテーターより、Co-Creation について説明

※Co-Creation とは、多様な立場の人たち、ステークホルダーと対話しながら新しい価値を生み出していく考え方

◆全国の Co-Creation の事例

- ・長野県塩尻市「ミチカラ」: 市役所職員と都市圏大企業社員がチームを組んで、市役所から提示されたテーマについて研究・議論し、市長へプレ

ゼンテーションして市の政策へ反映する。

- ・神奈川県鎌倉市「カマコンバレー」：毎月定例で開催されるブレスト会にメンバーや一般公募による解決したいアイデアを提示し、ブレストにより解決アイデアを創出し、プロジェクト化する。
- ・「コクリ！プロジェクト」：Co-Creation（共創）プロセスを使い、地域・社会の転換を図るプロジェクト。半年から一年のプロジェクトを地域で組成し、実証研究を展開する。
- ・埼玉県横瀬町「よこらぼ」：横瀬町で実施したいプロジェクトを持つ個人・企業が Web サイト経由でプロジェクトに提案する。採択されると町の様々なサポートを受けられる。
- ・兵庫県神戸市「Urban Innovation Japan」：神戸市が希望する実証実験を提示し、参画を希望するスタートアップ企業が応募し、約 4 か月の実証実験を実施する。
- ・新潟県妙高市「みょうこうミライ会議」：市役所職員・市内住民と、事業者都市圏 IT 系企業社員がチームを組み、市役所から提示されたテーマについて研究・議論し、市長へプレゼンテーションして市の政策へ反映する。

【意見交換】

K委員

中軽井沢のエリアデザインについて検討していく中で、地元の商店街だけではなく中軽井沢エリアにある企業も一緒に取り組めるとよい。

ファシリテーター

現在は、運営会議として地元のメンバーが中心となり協議している。今後は、多くの方から意見をいただく機会として地域会議を開くので、協力いただくこともある。

副会長

軽井沢観光協会内の観光戦略会議において、次年度は交通渋滞を重点テーマとする事が決まった。そこで、交通関連 P T の石山座長に了解

を得たうえで、観光協会長と専務理事に交通関連PTと連携して渋滞問題に取り組まないかと打診したところ、快諾いただいた。また、軽井沢国際交流協会でも、交通渋滞に関するデータ収集等を実施しているため、交通関連PTとの連携について相談したところ、快諾いただいた。

ファシリテーター

他の団体等との繋がりが鍵となる。

D委員

コミュニティ共創PTの会議内で、中嶋座長より防災PTを作ったらどうかと提案いただいたが、私は辞退させてもらった。防災は、行政がトップとして進めていくべき取り組み課題なので、その中心となる組織については、行政に議論していただいた方がよいと思ったからである。

A委員

委員より今後の風土フォーラムや第3期の在り方について述べたので、それを踏まえて町長から一步踏み込んだ考えを伺いたい。

○町長所感

風土フォーラムは、成果として形を残す事が大事なのか、それとも議論して意識を高めていく事が大事なのかで大きく分かれる。風土フォーラムがスタートした当初、自走・住民自治を大切にしたいという思いから、私からは具体的に実施してほしい事項は伝えなかった。なぜなら、皆さんでテーマを考えて取り組んでいただく事が本来の姿だと思ったからである。

カリフォルニア・カーメルの議場を視察した時に、クッキーやお茶が置いてあり、議員も傍聴者も自由に食べられるようになっていた。日本では許されないが、その場の雰囲気や和らいだものに変った気がした。基本会議を傍聴しに来る人は、自分の時間を使って話を聞きに来ているので、もっと傍聴するのが楽しくなるような形で実施してほしい。そうする事で、議論している内容がどんどん外へ広がっていく。話を外

へ広げていかなければ、限られた人たちの一つの会議という範囲を超えず、住民自治とは言えない。

風土フォーラムで「ヒト・モノ・カネ」を何に使うのか、明確な理由があれば、行政でも予算化を拒むことはない。議会の承認を得るには、きちんと作り込み具体化していただけるとよい。

軽井沢らしさとは、新しいものを築きそれが時間の経過に伴い歴史になっていくところにあるのではないか。新しいものを発信していく事が、この町には求められている。

4. 事務連絡

○事務局より連絡事項について

【連絡事項】

- ・事務局より、軽井沢 22 世紀風土フォーラムまちづくり活動支援部会の報告について説明
- ・風土フォーラム名誉顧問中村良夫氏から寄せられたメッセージ「元気に風土と戯れてください」

5. 閉 会

- ・今年度末を持ち、現在の風土フォーラム基本会議委員の任期は満了となる。今後の人事については現在事務局にて調整している。各委員においては、今後も当町のまちづくりにご理解ご協力をお願いしたい。